

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月6日実施)	総合評価(3月26日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>○一人ひとりのニーズに合わせた教育を実践する</p> <p>○「自立と社会参加」をめざし、幼稚園から高等部まで子どもたちが主体的意欲的になる授業を実践する</p> <p>○「授業改善プロジェクト」を継続し、授業改善を組織的に行う</p>	<p>○子どもの成長が実感できる授業づくりを行う</p>	<p>①組織的な授業改善に取り組み、教員一人ひとりの授業力の向上を図る</p> <p>②アセスメントの的確な読み取り、実態把握の力を高め、個別教育計画に活用する</p> <p>③個別教育計画を授業に反映する仕組みづくりを行う</p>	<p>①全教員がシステムを活用し、年1回主体的に授業を公開できたか</p> <p>②個別にアセスメントを実施したか</p> <p>②アセスメントの読み取りと個別教育計画の配慮事項との関連が図れたか</p> <p>③個別教育計画の指導目標を基に指導案を作成したか</p>	<p>①授業公開は、対象教員すべてが実施することができた。</p> <p>②障害に応じたアセスメントを4月中におおむね実施することができた。それを基に個別教育計画を作成し、計画の見直しも行った。</p> <p>③指導目標を基にした指導案を作成し、授業を実施するとともに、振り返りも行うことができた。</p>	<p>①参観者を増やすことが課題。早くから計画を示すなどして参観を促す。</p> <p>②前期の変化を踏まえて、後期の個別教育計画を作成する必要があるため、アセスの読取に関する研修を実施する。</p> <p>③授業改善システムを継続する必要がある。「自立と社会参加をめざす学習内容図」、個別教育計画、授業(指導案)に関連性がでる仕組みづくりを継続して行う。</p>	<p>①様々な授業改善は、すばらしい取り組みである。</p> <p>②特別支援学校において、幼児児童生徒の障害に応じた丁寧な指導は不可欠である。</p> <p><small>〈保護者アンケート〉 ○個別指導計画が子どもの実態に合わせて作成されているか ⇒満足76% やや満足22%</small></p>	<p>①学校関係者からの関心も高い。参観者を増やし授業力向上に繋げる必要がある。</p> <p>②アセスメントを基にした、個別教育計画を作成することができた。作成には、アセスメントを的確に読み取る力が必要。</p> <p>③個別教育計画の指導目標を基に指導案を作成し、授業を行うことができたが、仕組みづくりは形にすることができなかった。</p>	<p>①授業検討会・学部授業改善を大切にして、教員一人ひとりが課題の改善に努める。</p> <p>②アセスメント読み取りに関する研修を計画し、実行する。</p> <p>③個別教育計画、授業(指導案)に関連性がでる仕組みづくりについて研究を進める。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>○一人ひとりの障害の特性や教育的ニーズに有効な支援ができるよう「複数の専門性」を持つよう自己研鑽に努める</p> <p>○「ICT推進プロジェクト」を継続していく</p> <p>○アセスメントを充実させ授業に反映させる</p> <p>○インクルーシブ教育を推進する</p>	<p>○一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援・指導の充実を図る</p>	<p>①校内の人的資源を効果的に活用し、教員一人ひとりの専門性を高めチーム力の向上を図る</p> <p>②いじめ対策マニュアルを基軸とした児童生徒指導の体制づくりを行う</p> <p>③子どもの実態、教育的ニーズに応じたICT機器の活用を推進する</p>	<p>①各教育部門の基礎的内容に基づいた校内研修を実施したか</p> <p>②ケース会の開催から学年会やいじめ対策委員会と、ケースに応じた対応ができたか</p> <p>③ICTを使用した授業内容とその効果を具体的に示すことができたか</p>	<p>①研究日等を月1回以上設け、各学部専門性の高い研修を行うことができた。</p> <p>②各学部学年関係結審や関係機関と連携し、随時ケース会議を開催して対応することができた。</p> <p>③対話型ロボットやビデオ通信を活用することにより、不登校の生徒が継続して登校できるようになった。勉強会等でICT機器使用の必要性を話題にし、外部関係者による研修会も実施できた。</p>	<p>①授業改善システムを活用するため、今後も各学部専門性の高い研修を実施する。</p> <p>②多様化するケースに対して、校内におけるより良い連携のし方を整理するため、校内支援体制を見直す。</p> <p>③ICT機器の更なる活用を推進する必要があるため、取組みの継続とビデオ通信の可能性等について研究を進める。</p>	<p>①特別支援学級を指導する教員の専門性が追いつかない中、中央支援学校の職員による講義等は大変好評である。</p> <p>②津久井やまゆり園の事件以来、学校で直接的な話題として取り上げることはないが、共生社会の実現に向けた取り組みは重要であると認識している。</p> <p><small>〈保護者アンケート〉 ○ICT機器を取入れた授業を実践しているか ⇒満足39% やや満足40%</small></p>	<p>①計画的に校内研修を実施できた。授業改善システムを活用するために、1年間を通じた研修活動が必要である。</p> <p>②いじめ対策委員会での対応が必要な事例は発生しなかったが、児童生徒が抱える課題が多様化している。</p> <p>③不登校の生徒が登校できるなどの成果が現れた。分かりやすい活用方法も含めICT機器の効果的な活用をさらに進める必要がある。</p>	<p>①来年度も各学部専門性の高い研修を継続する。</p> <p>②初期対応から指導体制更に外部機関との連携など、校内支援体制作りを進める。</p> <p>③iPad勉強会等において活用する教員のニーズに応じ、機器の効果的な活用方法を共有していく。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月6日実施)	総合評価(3月26日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○子どもたち一人ひとりの生活の充実をめざし、発達段階に応じた進路指導・支援を行う	○子どもたちの将来の生活を見据えた幼小中高一貫したキャリア教育を実行する	①校外行事の目的、教育課程上の位置付けを整理する ②キャリア教育の視点による地域資源を活用した進路学習に取り組む ③日々の授業や教育活動が将来にどう繋がっていくのかを意識した授業づくりを行う	①学部部門ごとの目標例をあげて整理できたか ②進路学習の内容表を作成したか ③キャリア教育などの指導内容表を作成したか	①校外行事マニュアルを改訂し、目的等を整理することができた。 ②③「自立と社会参加をめざす学習内容図」を作成し、授業のねらいと照らし合わせながら活用できた。授業改善の取組みでも、参観者用の資料として全教員が活用した。	①社会の変化やニーズに応じた行事にするため、運用していく中で見直しを進める。 ②③「自立と社会参加をめざす学習内容図」を実態に合わせて改訂していく必要がある。 ③幅広い教科でキャリア教育を進める必要があるため、教科ごとの話し合いとともに保護者にも理解を求める。	②③「自立と社会参加をめざす学習内容図」は、具体的で大変分かりやすい。 〈保護者アンケート〉 ○「自立と社会参加」に向けた授業が行われているか ⇒満足18% やや満足21%	①マニュアルを改訂し、目的等を整理した。 ②③「自立と社会参加をめざす学習内容図」を保護者に丁寧に説明する必要がある。 ③支援シート等の活用方法を検討し、成長や教育の記録などを整理する必要がある。	②③学習内容図の周知とともに、授業内容についても保護者に丁寧に説明していく。 ③支援シート等の活用方法を検討し、指導内容について整理し、成果物を作成する。
4	地域等との協働	○地域の支援教育のランドマークとしての役割を実行する ○インクルーシブ教育の推進を図る	○相模原市の支援ネットワークの一員としてセンター機能の充実を図る	①様々なニーズに対応できるよう地域との連携を密にし、ネットワークづくりに努める ②共生社会の実現に向けた、地域と連携した教育活動に取り組む ③日々の教育活動を通して、地域に開かれた学校づくりの具現化を図る	①地域のネットワークに参加し支援方法を提供できたか ②本校の役割について理解を広めることができたか ③共同学習や交流学习を実施し成果を広報できたか ③公開授業や学校の取組を地域へ発信できたか	①②相小(中)研、相支援研、自立支援協議会、重中心NW会議等への参加や巡回・乳幼児相談、個別の支援計画策定会議等の関係機関と連携して活動することができた。 ③居住地交流、共和小学校やオベリン保育園等の学校間交流、また、共同学習及び交流学习を進めることができた。	①②今後も相模原市の支援ネットワークの一員としてセンター機能の充実を図る必要があるため、人材育成を含めた校内支援体制の強化を進める。 ③継続して交流等を実施することが重要であるため、担当者間の引継ぎ等を確実に実施する。	①特別支援学級を指導する教員の専門性が低い。貴校職員による研修会も好評で巡回指導にも大変助けられている。 〈保護者アンケート〉 ○地域に開かれた学校づくりを進めているか ⇒満足66% やや満足31% ○地域や近隣の学校と交流活動を行っているか ⇒満足46% やや満足39%	①②各種研修会・協議会等に参加しネットワークづくりに努めるとともに、巡回・乳幼児相談等により地域と連携した教育活動ができた。 ③居住地交流、近隣学校等との学校間交流・共同学習・交流学习を積極的に進めることができた。 ③「さがみはらのめぐみ」取扱店登録など地域に発信することができた。	①②様々なニーズに対応する必要があるため、地域との連携や情報の共有など校内支援体制づくり・地域の支援ネットワークづくりを進める。 ③居住地交流、近隣学校等との学校間交流・共同学習・交流学习を継続して実施する。 ③HPやお知らせ等により取り組みを発信する。
5	学校管理 学校運営	○信頼と期待に応える学校づくりを推進する ○安心して安全な教育環境の整備に取り組む ○防災教育を推進する ○不祥事防止の徹底を図る	○安心して安全な教育環境の整備と防災教育を推進する	①地域との協働の防災活動に取り組み、福祉避難所開設に向けた整備を行う ②災害時を想定した訓練を実施し身を守る力を身に付ける ③不祥事防止会議等の持ち方を工夫し、一人ひとりの意識の向上を図る	①福祉避難所の活動マニュアルを作成できたか ②訓練の目的を明確に示して実施し、改善点をあげることができたか ③不祥事防止会議の計画と実行に様々な教員の意見を反映して実施できたか	①相模原市障害政策課において市のガイドラインを確認し、検討を進めた。 ②改善点を踏まえ訓練を実施することができた。 ③不祥事防止ゼロプログラムを基に、事故防止会議・不祥事防止研修会を実施することができた。	①本校のマニュアル完成には至っていないため、市との調整を進め完成を目指す。 ②新たな事態に対する訓練が必要になった。 ③実際に発生した事件・事故踏まえた研修が必要なため、タイムリーな話題を交えながら研修会等を実施する。	①福祉避難所に指定されていることを初めて知った。共和小や地域を含めた防災に関する取り組みを進めるので参加してもらいたい。 ③先生方の多忙化を解消するために業務改善は重要である。 〈保護者アンケート〉 ○日頃から緊急時対応や防災対策に取り組んでいるか ⇒満足62% やや満足32%	①相模原市との調整とともに具体的な内容が確定していったため、本校の計画通り取り組みが進まなかった。 ②今後は、様々な訓練の実施だけでなく保護者への引渡し方法等の体制作りを進める必要がある。 ③継続した事故防止会議・不祥事防止研修会を実施している。学校ポータルサイトのメールアドレスが流出してしまった。	②相模原市との調整が少しでもスムーズに進むよう、先行して課題を整理しマニュアルを完成させる。 ②実情に応じた訓練の実施や保護者への引渡し方法等の体制作りを進める。 ③職員の意識をさらに高め、不祥事ゼロを目指した不祥事防止研修会を実施する。